

二宮町ごみ減量化推進協議会 会議次第

日 時 平成23年8月31日(水)

午前10時00分より

場 所 二宮町役場 2階 第1会議室

1. 開 会

2. 委員の委嘱等について

○委員の自己紹介

3. 議 題

(1) 廃食油の分別収集について

(2) 今後のごみ減量化方策について

(3) その他

○藤沢市の戸別収集について現地視察の報告

4. 閉 会

廃食油の分別収集について

①現在の処理

【可燃ごみとして焼却】

- ・毎日出るごみ（可燃ごみ）として出してもらい、焼却している。

【再利用または売却】

- ・廃食油回収委員宅にポリタンクを設置してもらい、町職員が随時回収。
- ・年数回、廃食油せっけんづくりを実施し、廃食油の再利用、せっけん利用のPRをしている。
- ・一定数量以上たまったものを、業者に売却している。

②今後の処理

【可燃ごみから分別】

- ・平塚市・大磯町では、廃食油を分別収集している。
- ・『平塚・大磯・二宮ブロックごみ処理広域化実施計画案』どおりに広域処理が実施されれば、平成28年度からの可燃ごみの広域処理が始まるまでに、廃食油を可燃ごみから分別する必要がある。

③平塚市・大磯町の廃食油処理

【平塚市】

- 収集量：約10t／月（約500ℓ／日）
- 貯蔵タンク容量：4,000ℓ×2=8,000ℓ
- 売却先：丸正
- 売却単価：30円／ℓ
- 搬出頻度：週1～2回、丸正が取りに来る。
- 売却金額：約3,600,000円

【大磯町】

- 収集量：約0.4t／月（約20ℓ／日）
- 貯蔵タンク容量：1,000ℓ
- 売却先：丸正
- 売却単価：30円／ℓ
- 搬出頻度：月1回、丸正が取りに来る。
- 売却金額：約144,000円

④二宮で処理をした場合を仮定すると

【二宮町】

- 収集量：約0.5 t/月（約25ℓ/日）※6 t/年
- 貯蔵タンク容量：1,000ℓ
- 売却先：丸正
- 売却単価：30円/ℓ
- 搬出頻度：月1回、丸正が取りに来る。
- 売却金額：約180,000円

【廃食油分別収集のメリット・デメリット】

○メリット

- ・廃食油がリサイクルされる。
- ・多少はごみの減量化になる。

→空きペットボトル（500mℓ）約30g

年6000ℓ→年12,000本分

12,000本×30g=0.36t

6t-0.36t=5.64tの減量 焼却経費約90,000円削減。

○デメリット

- ・分別収集、処理のための経費がかかる。
- ・油が入っていたペットボトル等は焼却処分せざるを得ない。

⑤実施時期はいつ頃がよいか

【広域処理より先行して実施】

- ・廃食油リサイクルが早くできる。
- ・経費のほうがかかるのであればデメリット。
- ・ごみの出し方を頻繁に改訂→住民の皆様が混乱
→ガイド、収集予定表の改訂

【広域処理と同時に実施】

- ・【先行して実施】の逆。

今後のごみ減量化方策について

平成 22 年度第 2 回会議にて、今後のごみ減量化方策として、下記 3 点で進めていくことにご賛同いただきました。

- 事業用指定ごみ袋の徹底
- 水分ひとしぼり
- 3R の推進

○事業用指定ごみ袋の徹底

広く啓発してもなかなか徹底されないことから、ごみ置き場を巡回し、事業用指定ごみ袋で出していない事業者をお願いした。

- ・お願いの手紙を出す（2 回）→ごみ袋に貼り紙をし、収集しない。
- ・お願いしたところは改善されたことが多いので、引き続き現場調査をして対応したい。



(2 0 l)

800 円 (20 枚入り)



(4 5 l)

1,800 円 (20 枚入り)

※参考

『事業系ごみ』とは、営利・非営利にかかわらず、すべての事業活動で発生するごみのことです。法律によって「事業者が責任を持って適正に処理する」ことが定められています。

事業系ごみは、「事業者自身が事業者の責任に基づき処理する」ことが基本ですが、当該事業者が自ら適正に処理することが困難であることから、「市町村が処理することができる」となっています。

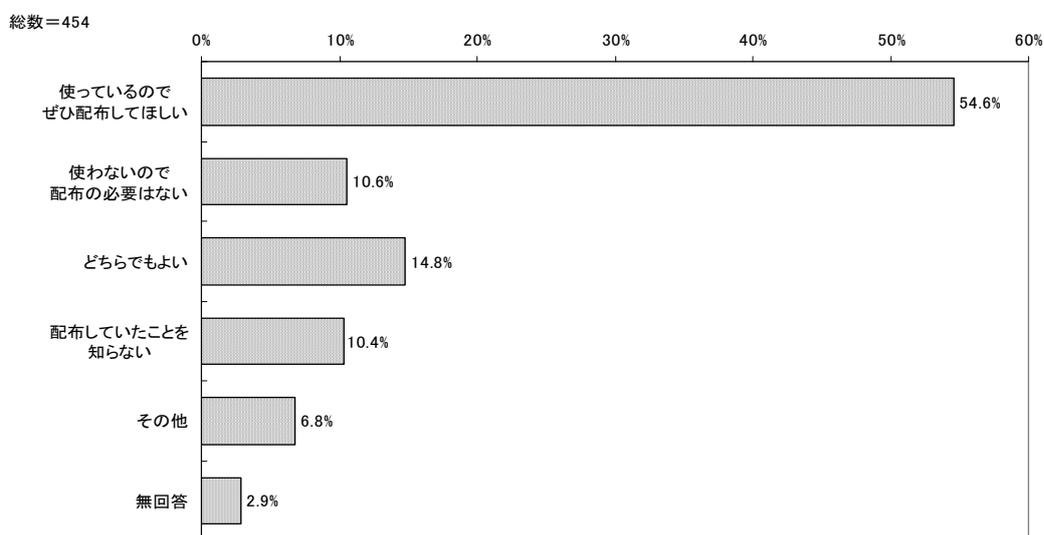
近年は、事業者責任の考え方が強まり、事業系ごみの処理は市町村が行わず、事業者自身で（委託して処理することも含めて）処理することが多くなってきています。

○水分ひとしぼり

- ・ 6月1日～水切りネット（10枚入）を指定ごみ袋につけて配布再開。在庫が無くなり次第終了（10月いっぱい頃まで見込み）。
- ・ 平成22年度のごみ分析の水分率は年4回の平均が49%と低い数値が出た。しかし、誤差がある調査のため、すべてが水切りネットの効果とは限らない。
- ・ 意識啓発という部分も含め、一定の成果はあるのではないかと。

・「環境に関する町民アンケート」における水切りネットの結果について

「二宮町環境基本計画」改定に向けて、町民のニーズを把握するため、平成23年5月11日～25日にかけて、環境に関するアンケートを実施した。その中で、水切りネットについて質問したところ、以下の結果を得た。



項目名	集計値	構成比
全体	454	100.0%
使っているのでぜひ配布してほしい	248	54.6%
使わないので配布の必要はない	48	10.6%
どちらでもよい	67	14.8%
配布していたことを知らない	47	10.4%
その他	31	6.8%
無回答	13	2.9%

○水切りネットの配布について、「使っているのでぜひ配布してほしい」（54.6%）が、「使わないので配布の必要はない」（10.6%）の5倍以上となっている。

○その一方で、「配布していたことを知らない」（10.4%）もあり、水切りネットの配布を継続するに際しては、町民への周知が必要と思われる。

販売店への水切りネット調査

平成22年度の水切りネットの配布状況等をごみ袋販売店へ電話により聞き取り調査を平成23年1月～2月にかけて行った。

配布方法

配布方法	店舗数
レジ渡し	59 店舗
箱用意	10 店舗
ごみ袋に貼付	4 店舗
配達	2 店舗
合計	75 店舗

評判

評判	店舗数
良い	29 店舗
悪い	0 店舗
どちらとも言えない。	9 店舗
分からない。	37 店舗
合計	75 店舗

完全にお客様が喜んでいる評判しか聞いていないと言う「良い」が39%、「良い反応もあれば、ネットは必要ないとの反応もある」といった、どちらとも言えないが12%、「お客様の評判は分からない」が、49%となっている。

自由意見

〔町指定ごみ袋販売店から水切りネットを配布することについて〕

配布することが、面倒臭いとの回答が2店舗あったが、多くの店は、サービスが出来て良い、環境のためになるので良いなど前向きな意見が目立った。

〔生分解性水切りネットについて〕

生分解性のネットである事を配布している店舗でも知らなかったとの意見やネット配布の趣旨をもっとPRした方が良いとの意見があった。

品質については、目が細かくて良い、よく水がしぼれる、ぬめりが取れて良いなど、多くの店舗から好評である。一方、少数意見ではあるが、目が細かすぎるとの意見もあった。

サイズについては、排水溝、三角コーナーに合わないという意見があり、水切りネットを持って行かない方の多くはサイズの問題であったと思われる。

〔事業継続について〕

多くの店舗から事業継続要望があった。しかし、少数ではあるが、もったいないとの意見もあった。

〔例〕

- ・ このような事業は、継続することが大切である。
- ・ ネットをやめるのであれば、別の手を考える必要があるのではないか？これで止めてしまうのは意味がない。
- ・ やっとネットの配布が浸透してきたところなので継続して欲しい。
- ・ 予算が厳しいのであれば、販売したらどうか。
- ・ お金を出しても欲しいという方もいる。
- ・ サービスが出来て良い。
- ・ ネットを配布するのではなく、ごみ袋を安くしろと言うクレーマーがいた。

○3Rの推進

- ・ ごみの分別の徹底
- ・ 広報による呼びかけ
- ・ 環境学習（H23年6月30日 一色小4年生69名）
- ・ 環境フォーラム、ふるさと祭りでの展示

藤沢市戸別収集・一声ふれあい収集現地視察報告

日時：平成23年8月25日（木）

場所：藤沢市役所

対応者：藤沢市環境事業センター職員

【質問事項に対する回答】

- ①戸別収集にして、どのくらい経費があがったか。
→8,000万円くらい。職員の数は同じ。全て委託料。
- ②戸別収集により、ごみを出した人が特定できてしまうことに対して、住民からの反対は。
→ない。ゼロに近い。
- ③戸別収集を始めるにあたり、ごみの出し方を変更したか。
→していない。品目は廃食油と剪定枝を増やした。
- ④各戸でごみを出す場所がばらばらで、収集に支障があるか。
→2週間くらいは混乱して、取りもれの苦情が一日100～200件あったが、それ以降は落ち着いた。今でも取りもれの苦情件数は一日5～6件はある。
- ⑤戸別収集を始めたことによって、予想もしなかった苦情はありますか。
→予想もしなかった苦情はない。苦情は取りもれが多い。カラスにやられる可燃を午前中に終わらせ、午後はプラとかをやるようにした。
- ⑥収集車が入れないようなお宅の収集方法は。
→歩いていく。すべてお宅の前まで取りに行く。スキーのそりみたいなものを持っていく。長いところでは300mとかある。江ノ島は大変。（江ノ島は直営ではなく委託している地域）
- ⑦後だしにもかかわらず収集忘れという苦情は増えたか。
→後だしでもすべて「ごめんなさい」して取りに行く。いつも後だしするお宅には、ごみが出ていない場合はピンポンして「収集に来ましたがごみありませんか」と尋ねてしまうようにしている。
- ⑧資源は従来どおり収集場所での収集とのことだが、収集場所の数は同じか。
→同じ。ビンやペットボトルなど、重かったりかさばったりするものも、戸別にしようとしており、現在15,000世帯をモデル地区として戸別収集している。
- ⑨ルール違反のごみは厳しく置いていきますか。
→すべて置いていく。ピンポン押してしまうこともある。
- ⑩戸別収集のメリット、デメリットは
→メリット：市民の方にとってはメリットばかり。
事業者のごみが制限できる。
デメリット：収集は大変。経費がかかる。

【その他】

- ・ビンも同時に収集しているのは2種以上収集したほうが効率的だから。
- ・Q スタート時からちゃんと出していたか。
A 出ていた。問題なかった。
- ・市民要望は多かった。なぜ私の家の前がごみ置き場なのかと。
- ・以前は事業者が出してもわからなかったが、今は出せなくなった。
- ・可燃ごみに混ざっている資源物が半分に減った。
- ・ごみ全体としては増える。出しやすくなる。遠くまで出していたのが家の前に出せるようになる。特に剪定枝・草などが増えた。
- ・有料化も同時なので、有料化では減った。戸別で分別率を増やして、有料化で減量化をする形。可燃で20%、不燃で30%以上減った。
- ・すべて現場の人が考えている。事務屋は予算取ったりとかだけ。
- ・半分は直営、半分委託。
- ・Q ごみ置き場に出しても収集するのか。
A 戸別でもごみ置き場でも収集しますと言っている。しかし、最初のごみ置き場に出しても、雨が降ると次第に戸別になっていく。
- ・Q 細かいルート設定が必要と思うが。
A 現場が考えている。
- ・Q 狭いところもあり、実際にバックしていたが、事故は増えたか。
A 戸別になって増えたということはない。3人→2人体制に変えた（必要に応じて3人でやる区域もある）。全車バックモニターを設置した。燃費が良くなった。パッカーがいっぱいになるまで巻かなくなったことと、デジタコをつけたことが要因。
- ・Q 事業系は集めているか。
A 集めている。登録制で約3,000事業者が登録している。1回400袋1つまでという制限を設けている。事業用の指定袋（青色）がある。
- ・Q 集合住宅のごみ置き場はどのように決めたか。
A ごみ置き場が無い集合住宅は約7,500件あり、管理者を1件1件まわって調整した。うち500件は管理者に会えなかったため、市が「ここに出して下さい」と決めた。後日管理者から「何で勝手に決めるのか」と苦情もあったが、説明して納得してもらった。

【高齢者ふれあい収集について】

- ・専属2台、作業員4名+面接員1名でやっている。事業費としては4,000万くらいか。平成13年度からやっている。高齢者、障がい者、一人住まいの方が対象。
- ・登録は386名。年間150件の申請があり、毎日のように面接している。ほとんどOK出しているが、あまり増えない。年間20件増くらい。亡くなったり、入院されたりする方が多い。
- ・Q ごみ収集以外のサービス内容は。
A 一声かけて生存確認。蛍光灯の取り換えとかもしている。お金がらみはやらない。福祉と相談して、これ以上はやってはいけないという一線を引いている。来るのを楽しみに待っていている人が多い。ベッドから落ちても、もうすぐ収集に来てくれるからそのまま待っていたという人もいる。
- ・Q 手続き方法は。
A 福祉担当部署で申請を受けてこちらへ回ってくる。
- ・Q ごみの分別は。
A 収集しながら職員が分別している。
- ・Q カギは。
A 開いている。行く日時が決まっているので、おそらくヘルパーが開けておいてくれるのだと思う。